

3. 史跡学習

月山直下標高約 1,733m にある「天空石橋」を初めとし、要所の史跡巡りをしながら下った。

4. 作業内容

安全作業を第一の心得とした。

以下の軽作業とし、重量物を背負ったり、移動させたりすることはなかった。

- ・登山道に被さっている**笹竹・雑木枝の切断除去（剪定鋏使用）**⇒みんな

以下3点は男性で行った。

- ・急坂の必要個所にトラロープを取付た。⇒ **手盡坂に2箇所、お花畠急坂に1箇所 計 50m×2束**
- ・お花畠旧坂の急傾斜部に切れ込みを入れた。⇒ ミニ鋤1個を現地置きした。
- ・頭が接触するほど道に傾斜している支障木の切断除去を行った（電動式鋸使用）。⇒ 特に懸案であった柴燈場からお花畠までの区間を徹底除去した。⇒ **他を含め計 35 本以上対応した。**

「元高清水」水場の確認と、至る道の整備を行った。

- ・先般 2025(R7)年 9 月 1 日(土)阿部剛士さんで行った際、宮林良幸さん工作の水場装置を設置した来たが、その状況を確認した。その結果、**明らかに湧水している自然水が溜まり、パイプからしっかり水が出ていることを確認した。合わせて、高清水通りからここに至る道については、樹木伐採等さらなる整備を図った。**

5. 食料・装備・作業用具

計画書に記載のとおりとなった。

6. 本会運営リーダー

計画書に記載のとおりとなった。

【 特 記 事 項 】

(1) 1日目／後方支援のこと

集合場所の口之宮湯殿山神社から姥沢駐車場まで、山内豊雄さんと片倉さんの奥様からそれぞれの自家用車で送って貰った。ありがとうございました。

(2) 2日目／（素敵なハプニング・サプライズ）

- ・ 下りの途中で、刈払い機を振りながら草木の刈払い整備に当たっている阿部剛士さん（一人、無償ボランティア）と合流した。
- ・ 一人が足の膝の具合が不調となったことから片倉さんが荷物を背負った。また、風吹反射板直下林道まで前出阿部さんが車で来ていたことから、本通り二十一丁（21.5 丁）相当地点からその方・片倉・阿部さんの3人が駐車位置に降りて、口之宮神社駐車場まで送って頂いた。
- ・ 残りの磯合・鬼塚・大村さんと大沼の4名は、文政五年起点記念碑までの旧道を歩き通した、口之宮神社駐車場に着いた処で全員と合流した、そこに宮林良幸さんが冷たい差入れを持って迎え入れてくれた。

以下に、MAR 塾活動・・・M (manabi) A (asobi) R (roudu)・・・に係る随時の写真を掲載する。

I 日目



下道を歩き草付きに出た所



一番の急坂途中



鍛冶小屋跡／西方を望む



「天空石橋」／仙台の方2名と



「天空石橋」／仙台の方撮影



「天空石橋」／若きエース



1 日目昼食／追分碑分岐



「月山 湯殿山 追分碑」



「来名戸神」撮影失念／上は発見当時



ロープ取付／手盡坂／1 個所目



ロープ取付／手盡坂／2 個所目





「御立石」／何を思うか若男



「手盡坂テラス」／妖精女子



小屋に着いて、まずは乾杯



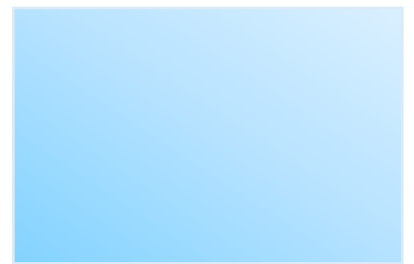
「御所王子社」



「御所王子社」／小屋をバックに



「御所王子社」の神様から見守られながら、夢と希望を乗せて「ヤッホー!!!」



1日目の夜「それぞれの半生を語る会」しんみり（吾が心中に感涙・・・）かつ、フロンティアスピリットを隠し味に

2日目



2日目／朝食



2日目／出発時



皆で「よこみち」笹竹切断



背負ったトラロープ



太い支障木切断



足元は「元高清水・九十六丁」



お花畠急坂にロープ取付／3箇所目



2日目／昼食時



阿部剛土さんと合流



冷たく豊富な「サカサ清水」



中間の「四十八丁」



冷たく豊富な「石船」



何というキノコか？



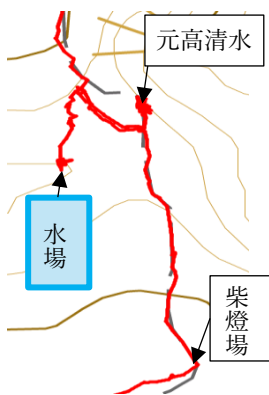
開かずの口之宮湯殿山神社トイレ



差入された宮林良幸さん（向かって左端）と全員集合

その他

「元高清水」水場



水場の位置(通りから約 100m)



2025(R7)/9/1(土)設置時

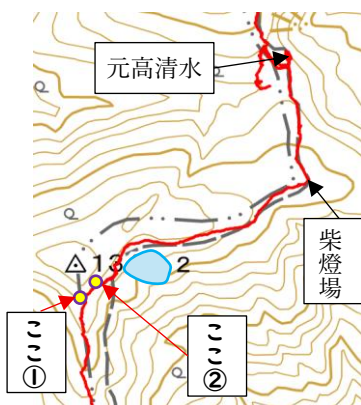


今回／冷たい湧水



水場分岐点の目印

すっだい補助金購入品現場置き



置き場所



①長い手鎌は突き当り樹木に立て掛け
次回、写真の撮り直しを行う



②ミニ鍬はビニールシートの中

【 総 合 所 感 】

年が明け、私は「高・清フレンドリー古道」域の魅力を、発信力のある若い人達にも是非とも知って貰いたいという思いにかられた、西川町地域おこし協力隊（インターン含む）との協働を願い、片倉・宮林共同代表と相談し、西川町役場つなぐ課の高橋香菜子さんに相談し、そして、西川町総合開発の堀豊さんとながり、片倉・堀・大沼の三者協議を踏まえて、この度の実現に至ったものであります。

堀さんは同協力隊の磯合さんに相談し、インターンの取り纏めを任せ、聞く処に依ると同行希望者が予想以上にいて、ジャンケンで女性2名（インターン／実習生・研修生）に絞ったということであるが、とてもとても嬉しく感じました。

2日間共に、途中、史跡が点在する往古の参詣古道を歩いた訳だが、若い皆が片倉さんと私の説明によくぞ耳を傾けて頂き、関心を持って貰ったことに嬉しさを感じました。私が内心予定していた史跡の全部を紹介することが出来ました。

剪定鋏で笹竹を切断する実作業は、片倉・大沼を除いた4人は初めての経験であったろうが、汗をかいて頂き感謝しています。また、ロープ取付、電動ノコでの傾斜木切断作業については磯合さんから力を出して頂き、女性陣からは観察して頂き登山道整備の一端を垣間見て貰った感じがします。

さて、嬉しかったことが沢山あった中でも二つ強い印象に残っています。

一つ目は、小屋に着いてまずはビールで乾杯、そして、約100m先の小高い360度展望地「御所王子社」に行き、日の入り17:48過ぎまで、薄雲の中に消え行く陽光と景色のコラボを思い存分味わった、そして最後に、陽が落ちた頃、阿弥陀如来の座す西方極楽浄土聖地と、湯殿山大日如来の座す御宝前——西の方角を向いて、「御所王子社」の神様から見守られながら、それぞれが、夢と希望を乗せて、ありったけの声を挙げつつ「ヤッホー!!!」を叫びました。

二つ目は、清川行人小屋に戻り懇談会、標高約1,365mの奥深い山中の山小屋です、アルコールコミュニケーションがとても有意義でありました。片倉・大沼からはこの界隈の史跡調査や登山道整備の話もしたがそれは長くはしなかった。薄暗いランタンだけの室内、私達6名だけでした、静かな静かな夜でした、全員のそれぞれのこれまでの半生（人生）を披瀝・披露することにしたのであります。一人ひとり、順に語りました、途中少し外れると、また、戻して、順に語りました、足りなかった処は質問をし合い、フォローし合いました。各自の人生の長さに応じて様々な経験を積んでいました、辛かったことも、うれしかったことも、葛藤も率直に吐露、語り合いました。静寂の中、一人が語ってる時、他の人全員が傾聴に集中しました、みんな、しっかりとした夢と希望を抱いていました、挑戦、模索、迷い、小さな挫折感・・・入り混じる中にも決してあきらめないという確固たる瑞々しい意志を感じました。端っこにいた女性が片倉・大沼のいる端っこに来て、いわゆる「お酌」をしてくださいました、今時には・・・、（今ふと思い出した、私のある懇親会で、少しだけのお酒を好む24歳の山形大学生が“対人関係融和の特効薬は酒飲み”と言い切ったことを。）私は適切な言葉が出て来ないのですが、今時のキャビキャビ（キャピキャピ）した幼稚っぽい語り口は微塵も感じませんでした。

私はぐっと堪えたが、時々内心熱くなるものを感じました、年齢や個性が雲散霧消した無境界世界観を堪能しました、まさしく、真の対等互啓（恵）精神を以って、生き方交換をしたという思いがしました。

私は76年の中で、若い頃から登山を趣味とし数多の山小屋に泊まりましたが、このようなセンチメンタルな雰囲気味わったのは初めてでありました。

もちろん、言うまでもないが「マンキタゲ佞奸根性」（ねたみ・ひがみ・やっかみ根性で、他人の人生を素直に聞き入れることの出来ない“いかさま”性格）を臭わす人は誰一人といませんでした。

私は今ここにおいて、偉そうなことを言うようで恐縮するが、同行された若い3名に次のようなエールを贈りたい。

みんな違う人生体験、みんな違う価値観、みんな違う個性、みんな違う特技・得手、みんな違う顔かたち、そこに何の優劣があろうか？ 個性に優劣はあろうはずはない、ないのだ！ 娑婆での社会的身分は人為的な便宜上の仮の一時の『朝露』の如くなのです。

- ・他人様はどうであれ、如何様であれ、自分自身に湧き出る好奇心・探求心・冒険心に素直に従順になれば良いだけだ。好奇心は最初の心の疼き、探究心は真相に迫りたくなる向上心、冒険心は実現したくなる精神だが、これは生まれた時に両親・ご先祖からプレゼントされた如何ともし難い性である。
- ・何かにつけての金銭的欲望は「身の丈」の範囲内と決意・決心すること。後は「身の丈」の範囲拡充に向けて努力すれば良いだけである。
- ・他人が出来て、自分が出来ないからといって、相手を逆恨みする必要もなければ、返って、自虐的・卑屈になる必要もない。自分が出来ずに他人が出来たならばそのまんまを認めて相手に賛辞を贈り、他人が出来ずに自分が出来たならばそのまんまを認めて自分に賛辞を贈ればいいだけだ。なぜならば人間は、その総合力において優劣・大小比較対象外だからだ。

・・

山内豊雄さん、片倉さんの奥様、阿部剛士さん、宮林良幸さん、後方支援を賜り、あらためて、ありがとうございます、あつく感謝申し上げます。

磯合勇斗さん、鬼塚遥さん、大村怜未さん、3人下山後の体調はどうなのかな？ 筋肉痛はあるかもしれないが、若さと気力ですぐに回復するだろう。 怜未さんの手の腫れが気になります、伊東さんの膝の具合が気になります、お二人の早く回復することを祈っています。 何よりも、今回の山行は良かったのかどうなのか、素直な感想はどうだったのでしょうか？ （片倉・大沼には言わなくともOK、言えとなればお世辞が入るから。堀さんや高橋さんには、嫌な思いを含めてストレートに報告しておいてください。）

菅野大志町長、内藤翔吾副町長、堀豊さん、3人に係る西川町役場や西川町総合開発の関係者にも心より感謝申し上げます。

さてさて、紅葉真っ盛りの頃に、メンバーを入れ替えてでも、山中奥深いこの山小屋で、若い人達との交流会を再度行いたいものです。

T・K-Friends と若人とのコラボ、初めての試みでありました、私自身があらためて人生諸々のことを学び直しました、全部まとめて、ありがとうございます。

片倉忠幸さん、ありがとう！！

(end)

T・K-Friends 事務局担当 大沼 香